

令和4年度研究計画書

令和4年 4月 7日

研究種類	基盤研究		
研究課題	定点写真を活用した景観問題発見のための基礎的研究		
研究代表者	池口 仁		
研究期間	令和元年度 ～ 令和4年度 (4カ年)		
共同研究者	小田宏伸 (成蹊大学経済学部) 小笠原 輝 (環境共生研究部)	研究協力者	
研究目的		研究目標	
<p>世界文化遺産富士山の眺望による価値の長期的なサステナビリティのために、現在モニタリング体制が法的に制度化され、運用されているのは眺望点定点観測モニタリングである。その結果(定点撮影写真)を用いて、富士山の価値の変化について、早期の変化の検知、検知した変化についての影響の判定を試み、富士山の保存管理の基盤を充実させることを目的とする。</p>		<p>1.モニタリング結果の変化の検知機能を付与するため、モニタリングの結果の眺望画像に変化をもたらした土地被覆変化を特定する。 2.信仰の対象・芸術の源泉という富士山の価値に土地被覆・景観の変化がどのような効果をもたらしているかを確かめることにより、価値を増す変化、価値を減じる変化、中立的な変化の判定のための指針の基礎を得る。</p>	
全体の研究計画	<p>1.定点撮影写真の分析による、富士山の視覚的景観の変化と視覚的景観に影響する土地被覆変化の特定 (H31・R2年度) 定点撮影写真の変化を抽出し、定点からの可視領域との対照からどの場所でどのような土地被覆変化が起きた結果、眺望が変化したのかを明らかにし、典型的な変化を抽出する。 2.定点観測写真を素材とした富士山の「信仰の対象」「芸術の源泉」としての価値の変化の確認 (R2・R3・R4年度) 2-1 定点観測写真を刺激とする被験者提示実験により、被験者の価値判断の結果の変化、価値判断に伴う処理流暢性の変化の測定を行い、両者を総合して価値の向上・損失につながる土地被覆変化、中立な土地被覆変化を分類する。被験者数は山梨県在住者 30名、東京在住者 50名程度の有効データを得たいと考えている。 2-2.世界遺産富士山の区域及びそのバッファゾーンにおける土地被覆変化とその視覚的景観に与える効果の取りまとめ。(R4年度) 2-3.前二項目の成果を元に、現在の保存管理体制の下で、どのような土地被覆変化・景観変化が起こり、富士山の世界文化遺産としての価値に影響しているか、価値の向上(価値の喪失)、価値へのアクセスの向上(アクセスの劣化)の観点で評価できるよう、評価の基礎となる知見に取りまとめる。価値の低下、アクセスの劣化をもたらす土地被覆変化については景観配慮上有効と思われる配慮の方法(代替策、影響緩和、代償措置の手法等)を既存の知見の文献調査等から添え、長期的な富士山の価値の継承の基礎資料とする。</p>		
前年度研究計画及び研究成果	<p>1) R2年度より着手したコンピュータプログラムを用いた心理学的実験のうち、目的とする集団(来訪者のモデル)を対象とする被験者の実験を甲府で開始した。その結果、R2年度分も合わせ41名の被験者のデータを得た。得られたデータの概観的な分析から、富士山が見える画像と見えないダミー画像では、回答結果が異なり、富士山の有無により風景の意味的に違いがあることが示唆された。富士山が見える画像に風景変化を付加した画像と元画像の間では、被験者の回答結果(風景の意味)に大きな違いがなく、処理流暢性(応答時間)に差が生じたものがあり、画像から受けた刺激の強さが異なることが示唆された。 2) 感染症蔓延の影響を受け、まん延等防止措置宣言の対象地域(東京)の新規被験者募集は取りやめとした。</p>		

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">当該年度の 実施内容</p>	<p>1) 実験結果の分析を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・富士山が見える画像と見えない画像（ダミー）との「意味の違い」を被験者の回答結果の違いから、「刺激の強さの違い」を処理流暢性の差から明らかにし、意味と刺激の強さの二面から「富士山が見えることの意義」を確認する。 ・実験画像（ダミー画像を除く）の材料としたそれぞれの地点につき付加した風景の変化について、被験者の回答から導かれる「風景の意味の変化」と被験者の応答時間から導かれる「刺激の強さの変化」の二面から分析し、風景変化の影響を評価することを試みる。 <p>2) 研究全体のまとめを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・既存の知見の文献調査と合わせて景観配慮上の基礎資料にもなるように研究全体を取りまとめる。
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">期待される 研究成果</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 視覚に擬したモニタリング結果と、地域の土地被覆変化の関連の整理が行われる ○ 実験的方法による景観変化の評価の技術基盤が整備される